

## 大谷中学校・高等学校

# 令和3年度学校関係者学校評価委員会

【日 時】 令和4年7月1日（金） 14:00～15:30

【場 所】 大谷中学校・高等学校 B26 教室

【出席者】（敬称略） 12名

柿花 正信	大阪市立松虫中学校校長（欠席）
三木 健史	大阪市立丸山小学校校長
米村 淳	(株)五ツ木書房取締役
富田 晃司	大阪大谷大学副学長
長島 清賀	保護者（PTA副会長）
荒木 結衣	卒業生
堀川 義博	校 長
村井 康容	教 頭 生活指導
三木 栄子	教 頭 教務
永田 幸子	教 頭
山西 京子	進路指導部長
伊藤 良太	英語・海外教育部長

1) 開会挨拶 校長 堀川 義博

2) 出席者紹介 校長 堀川 義博

3) 資料 資料1 『令和3年度 大谷中学校・高等学校 学校評価』  
資料2 『令和3年度 教員による学校自己評価』  
資料3 『令和3年度 保護者アンケート』  
資料4 『令和3年度 生徒アンケート』

## 令和3年度 大谷中学校・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲と社会の変化に的確に対応し得る能力を育み、21世紀社会を正しく生きるための幅広い社会認識を持たせる。

心身ともに健全で美しい女性を育成する女子校として、宗教的情操教育を基盤とした生活指導の徹底と進学校としてのより高度な学力養成をはかり、慈悲の心を有する優しい女性、礼儀正しい美しい女性、高い知力を備えた聡明な女性を育む。

### 2 中期的目標

#### 1. 学習指導

- ① 学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。
- ② コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。
- ③ 「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。

#### 2. 進路指導

- ① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。
- ② 中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。
- ③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に付けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。

#### 3. 生活指導

- ① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。
- ② 生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。
- ③ 教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。  
カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。

#### 4. 海外教育

- ① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。
- ② 異文化理解に努める。
- ③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。
- ④ ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。

#### 5. 生徒募集・広報活動

- ① 中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。
- ② 高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。

3 本年度の取組内容及び自己評価

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	①学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。</li> <li>・各学年の学力状況を、具体的に把握をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員合格を目指して指導する。</li> <li>・成績不十分者には追試や課題などを与える。</li> <li>・英検と漢検の最新の取得状況を各学年で把握するため、6学年とも係の教員を決め更新作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立と、基礎学力の定着に効果が現れた。(○)</li> <li>・小テストの実施について改善が見られた。(△)</li> <li>・全学年の英検・漢検の取得状況を一覧表にし、各学年での取得級目標の設定や現状把握がしやすくなった。(○)</li> </ul>
	②コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職会議で、生徒の考査成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくす。</li> <li>・各学年の中間成績層をのばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学では、低学力層の生徒に対する手当を、定期考査前後の特別講習等に対応した。(○)</li> <li>・中学・高校とも、模試ごとの分析会を学年毎に開催し、各学年の学力状況についての共通認識と課題を教員間で把握した。(△)</li> </ul>
	③「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研鑽週間をⅢ学期に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学、高校それぞれの授業を1時間以上見学し、報告書を提出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師の授業や、リモート授業も自由に見学できることとした。iPadを用いた授業の見学により、他教科の授業であっても、自分の授業に活かすことができた。(○)</li> <li>・研鑽報告として、教科の教員による模擬授業や、勉強会での報告も可とした。多数の教員の参考になるように、模擬授業の動画配信を行い、教科指導の研鑽につとめた報告もあった。(○)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C T 機器などを活用し、「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任・常勤に一人一台のタブレットを配布した。そのことで、コロナ禍のリモート授業にも対応するとともに、生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のI C T 機器の活用が増え、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高揚させることができた。また、プロジェクターなどを生徒の理解を助けるために、有効活用できている。(◎)</li> <li>・コロナ禍での、急遽のリモート授業にもスムーズに全学年・全クラス対応ができた。(◎)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導委員会による検討内容が全教員に伝わり、学年間や教科間での連携、状況認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かされる。</li> <li>・高校の新課程・新カリキュラム・観点別評価について、決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導委員会の会議内容は、学年会議を通じて毎週報告をした。これにより伝達がスムーズになった。(○)</li> <li>・高校の新課程・新カリキュラムについて、学習指導委員会で原案をたて、職員全体で共通理解するとともに、課題を把握した上で、作成することができた。(○)</li> <li>・コースごとの、学年評定の見直し、新カリキュラムの観点別評価について検討を行った。(○)</li> </ul>	
2 進路指導	①生徒の進路や個性に応じたコース編成で、一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常講習や小テスト、長期休暇中の講習を実施する。</li> <li>・卒業生のチューターを活用して少人数の個別指導をしたり、体験談を聞く機会を設けモチベーションアップにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの講習・小テストの日程・回数・内容について、生徒のニーズに合っているか、7割以上の満足度を得られているかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習の日程・回数についてはコロナ禍で、放課後の活動が制限され十分とは言えない結果になったが、内容については工夫されていた。小テストはほぼ予定通り行われ、内容も生徒にあうものであった。(△)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、それぞれの学習ペースに応じた学習環境を整える。</li> <li>・学習や進路についての個別面談をきめ細やかに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースの目標に沿った学習計画・学習内容が展開されているか、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース内の学力差が大きく、コースの目的にあうコース変更とはいかなかった。しかし、面談を丁寧に行うことによって、生徒それぞれの目標設定の指導が行なえた。(○)</li> </ul>
	②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考える機会を設け意識を促す。</li> <li>・模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の合格者数が在籍人数の2割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ20名程度、関関同立の合格者数がのべ100名を超えることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格実績については国公立大学の合格者数は目標を上回り、関関同立の合格者数もほぼ100名となったが、医学部医学科の合格者数は目標に達しなかった。ほとんどの生徒が満足のいく進路結果が得られていたと思われる。(◎)</li> </ul>
	③将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に付けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が将来の姿を思い描く手がかりになるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、外部の行事や校内行事がほとんど実施できなかった。しかし、リモートでの参加や担任・教科担当の工夫で補った。(△)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の出前授業や外部団体による体験授業などを活用し、生徒のモチベーションのアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において1回ずつは実施する。</li> <li>・休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、外部や校内で集まる行事が実施できなかった。しかし、担任・教科担当が工夫して補った。(△)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験・見学など機会あるごとに振り返りを言語化し、文章にまとめるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任・教科担当が表現力の涵養を強く意識し、プレゼン指導や文章表現指導に積極的に取り組んだ。(○)</li> </ul>	

3 本年度の取組内容及び自己評価

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 生活指導	①「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。	・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。 ・遅刻の多い生徒への個別指導を行う。	・生徒・保護者アンケート。遅刻指導の報告書。	・生徒・保護者アンケート結果から昨年度より向上がみられるが、毎朝の登校指導の様子からは「自分からあいさつできる生徒」はまだ少ない。(×) ・遅刻者数は減少しているが、コロナ不安で登校しない生徒も増えていた。(○)
	②生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。	・防災避難訓練の実施。SNSについての講演。 ・薬物についての講演。性被害についての講演。	・生徒・保護者アンケート。危機管理についての意識付け。	・感染症対策の為、全体での避難訓練の実施はできなかった。(×) ・SNSや薬物の講演は時期を変更して実施できた。(○) ・新しい情報は今後の生徒指導に生かすことができた。(○)
	③教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。	・職員人権教育研修会でいじめについての講演。 ・学園カウンセラーとの情報交換。		・職員人権教育研修会でいじめの講演を実施できた。(○) ・学園カウンセラーとの情報交換はできた。(○)
4 海外教育	①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。	・夏期海外研修・姉妹校交流などを推進する。 ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンにおける活動を準備している。	・ニュージーランド夏期研修・オーストラリア夏期研修・タイ夏期研修を通じて国際理解を深める。 ・GEZにおけるネイティブとの英語レッスンは次年度から開始予定。	・コロナ禍のために海外研修・ニュージーランド留学を実施することができず、計画の遂行ができなかった。(×) ・次年度からGEZでの英会話レッスンを通じてネイティブとの英語会話の機会を増やす予定。(○)
	②異文化理解に努める。	・ニュージーランド姉妹校オークランド・グラマー・スクールの生徒と「文通」を開始する。2学期末に本校生徒からの英文手紙を送り、「文通」による交流を実践する。	・ニュージーランド姉妹校生徒に対して本校生徒から手紙を送り「文通」を実現させる。	・本校生徒たちからニュージーランド姉妹校へ手紙を送り、生徒個人をベースに姉妹校交流を試みた。一部の生徒は姉妹校生徒とのメールでの交流を開始している。(○)
	③英語によるプレゼンテーションの向上を図る。	・グローバル・イングリッシュ・ゾーンでの活動を検討する。 ・SDG s に関わるテーマについて情報収集と交流をすすめる。 ・2022年度アートマイル国際協働学習プロジェクト参加をめざす。	・同世代の外国の学校とSDG s に関わる交流を実践して、相互理解を通じて世界的な課題を認識して、現状認識を将来の展望について考えさせたい。	・放課後の活動時間の確保ができず今年度は十分な成果を上げることができなかった。次年度のアートマイル国際協働学習プロジェクトへの参加をめざして活動をすすめたい。アートマイルの活動の一部をGEZの活動に結びつけたい。(△)
	④ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。	・NZ留学予定者にはグローバル・イングリッシュ・ゾーン（GEZ）への参加を義務づけている。	・一人もしくは少数者による英語プレゼンテーションを数多く経験させて、実用英語力の定着を図る。	・グローバル・イングリッシュ・ゾーンの開設に向けて、習熟度別にネイティブと英語を話す機会をある程度とることができた。(○)
5 生徒募集・広報活動	①中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。	・参加人数だけでなく、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。	・参加者アンケートの分析。 ・出願者の通塾先の分析。	・アンケートの分析からは、昨年並みの出願が見込めた。(◎)
	②高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。	・塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。 ・公立中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメールなどで、入試情報提供を行う。	・出願者の出身中学の分析。 ・本校説明会や外部相談会本校ブース参加者の人数。	・高校入試では、北摂の受験生の出願が複数見られた。(◎) ・募集定員確保は成らずとも、出願数・入学者数共に伸ばすことができた。(○)